

<今日の説教のポイント エフェソの信徒への手紙5章21～33節>

①突然テーマが変わったわけではない。 妻と夫への教え

何の脈絡もなく、突然、夫婦についての教えが出て来たような気がするかもしれませんが。しかし違います。「古い人を脱ぎ捨て、新しい人を着て歩みなさい」(4:23-24)、つまり「主に結ばれて、光の子として歩みなさい」(5:9)と語って来たのに続いて語られている内容なのです。どんなことが語られ、どんな点が新しいのでしょうか？

②妻には「仕えよ、敬え」、夫には「愛せよ」。これ、おかしくない？

この箇所を読むと「不公平だ」と思う女性がおられるかもしれません。なぜなら、妻には「夫に仕えなさい、敬いなさい」(22-24, 33)と言われているのに、夫には「妻を愛しなさい」(25-29)と言われており、愛する方が仕える方より楽であり、上下関係を感じさせられるからです。しかし、ここでもそんなことが考えられているのでしょうか？

③キリストと教会(私たち)の関係で考える。 一番大事な点！

ここで一番の特徴は、妻と夫のあり方をキリストと教会(信仰者)の関係に基づいて教えている点です。どんな関係か？ 「キリストが教会を愛し、教会のために御自分をお与えになったように、妻を愛しなさい」(5:25)で示された関係です。つまり、イエス様が私たちの救いのために死んで下さったような愛をもって妻を愛することが求められているのです。相手のために自分の命を犠牲にする愛です！ 「愛する方が仕えることより楽だ」と言えるのでしょうか？ 否、もっと大変だと思います。以上のことは結婚準備会で必ず話すことにしています。一番大事なことは実は一番最初に言われているのです、「キリストに対する畏れをもって、互いに仕え合いなさい」と(21)。

④父母を離れて一体となる(創世記2章24節)。今の時代も大事な教え。

なぜ最後にこの言葉が持ち出されたのか？ 互いが相手を尊敬し合い、相手が欠けある自分を受け入れてくれていることを思って夫婦が一体となる。これを妨げやすいのは実家の父母なのか？ 注意、注意！